

～地域の必要に長年といくんできたワーカーズだから、地域の人と情報をつなげられる～ 「実績と信頼」
今回は、「地域とともに成長してきたワーカーズ」をテーマに組合員わくわく編集委員が取材しました。

NPO法人
ワーカーズコレクティブ 風車

目指すは認め合い助け合う社会
(佐倉・リユース食器事業)
<https://reuse-fuusha.net/>



風車は、生きにくさを抱えた人たちと一緒に働く場と居場所を開催しています。仕事はリユース食器のレンタルです。使い捨て食器の焼却ゴミとCO2排出削減に貢献でき、誰にでもできる作業が多くありますが、作業に参加しない選択もOK。「現代社会で傷ついてきた人にとって必要なのは仕事より居場所」と下村小夜子さん。不登校と引きこもりの親の会を主宰しその仲間とともに2008年、風車を設立しました。目指すは”多様性を認め合い助け合う社会”だといいます。

3年前「みんなの食堂」を始めたのは、“見えない貧困”への支援に加え、「近隣の人が気軽に立ち寄って風車のメンバーと自然に触れ合う場」が欲しいと思ったからとのこと。居場所の活動に参加する常連客も現れ、地域への認知も広がりました。

多様性社会に向けて講演会もたびたび開催し“スタッフ自身が当事者”だからこそその問題意識を、社会的課題として発信できるのは、まさにW.Co.だからできることだと感じます。その想いがよりスタンダードな活動として地域や社会に拡散していくことを願っています。(千葉ブロック編集委員 中島さなえ)

企業組合 紙ふうせん



ともに働き続けられる場をつくる
(野田・B型就労事業所・レストラン)
<https://kamifusen1.exblog.jp/>



1995年、リサイクルショップ・環境活動から始まった紙ふうせんは、地域の方の居場所として、些細な困りごとを解決する便利屋としての活動に加え、今では安心安全な食材、地場野菜を使ったお弁当販売、レストラン等を中心にした食の事業も展開しています。お弁当は、ひと月ごとに飽きの来ないように献立を工夫し、日替わり弁当、定番の生姜焼き弁当、チキンカツ弁当など多彩なメニューです。昼は近隣の会社や個人利用者への販売・配達ですが、高齢者へのお弁当配達では見守りも兼ねていて、何かあった時にはご家族へ連絡を入れるなど、離れた家族にとって心強い味方となっています。

また、子育て・介護や様々な理由を持つ人が、歳を重ねても、健康に不安があっても、共に働く場所になれるようにという理念を大切にしてきました。5年前に就労継続支援B型事業所となり、今では障害福祉サービスを実施しています。この事業は、通ってくる方達が紙ふうせんの事業を共に行うことや生活クラブグループ連携団体での作業を通じて、就労に必要な能力を育み、支援にもなっています。「いつも本気で本音で」をモットーに、こんなことお願いできるかなと思うような困りごとにも、可能な限り応えて、いまでは地域になくはならない生活の拠り所になっていると感じました。

(市原ブロック編集委員 北方典子)

NPO法人
ワーカーズコレクティブ ういず



地域の人の活躍の場をつくる

(柏・居場所事業/たすけ合い事業/子ども食堂)
<https://with-kitchencar.org/index.html>



ういずは、人と人とを結ぶ街づくりをコンセプトに、空き家活用での居場所づくり、シャッター通りの商店街の活性化やキッチンカーやコミュニティカフェで子ども食堂やたすけあい事業を展開し、人と人との輪をつなぎながら、働く場・活躍の場を地域にも広げて『お互いさま』のコミュニティづくりに寄与しています。

「地域の人誇りに思える街づくりをめざし、活動をしてきました。活動が事業として定着するには、地域の人共感・協力や支援が欠かせません。地域の必要は地域(居場所の参加者やサービス利用者、住人)ごとに異なります。そういう時こそ皆で話し合い、自主性と当事者性を育てながら活動を推進するというワーカーズの手法が活きます!」と代表の北田恵子さん。

生活クラブ連合デリバリーセンターで働いていたメンバー6人で起業した2004年。当時抱いたワーカーズが地域で通用するのか?という問いへの探究心と、地域をワーカーズで元気にしたいという熱意と覚悟は今も変わらず、20年目を迎えた今も活躍の場を広げるういずは、地域にとってなくてはならない存在だと感じました。

(市原ブロック編集委員 増山真由子)